

JA女性組織で地球温暖化対策に取り組みましょう

JA女性 エコライフ宣言

私たちは、JA総連、JA女性組織総連に則り、地域の農業と美しい環境を次世代に継承し、すまいよい地域社会づくりのために、協同活動を実践しています。

地球温暖化問題は、地球上の全ての生物にとって最重要問題のひとつになりました。地域生活を営む私たち一人ひとりが、地球温暖化防止を自らの使命と受け止め、少しずつでも着実に取り組みを実践するため、次のことを宣言します。

1. 環境問題に関心を持ち、仲間とともに自主的な学習活動を行います。
1. 日々の暮らしの中に省エネ、エコライフを取り入れます。
1. 仲間とともに、地域に地球温暖化防止の意識を啓発し、エコライフ運動を実践します。



地球温暖化で、農業・日常生活にこんな影響がもたらされます

海面上昇

小さな海面上昇でも汽水域でのノリ、カキ、アサリなどの沿岸養殖への影響、地下水への海水の流入等の影響が考えられる。



病害虫の発生

今まで発生しなかった病害虫が作物に影響を与える可能性があります。



生物種の絶滅

生態系が変化する可能性があります。有益な昆虫類がいなくなることも。



伝染病の発生

今まで発生したことがない伝染病の発生が考えられます。



異常気象の増加

気象の極端化(豪雨、早稲の増加)、台風が増加が考えられます。



産地の移動

今まで作れていた作物が作れなくなる地方も出てきます。福は東日本では作付けが早く、西日本では遅くなるといわれています。



ここにあげたように、今まで発生しなかった病害虫が作物に影響を与えたり、異常気象による集中豪雨等の発生で、農作物が冠水・流出したりする恐れがあります。また、農畜産物の品質低下、とくに稲の発育不良、果実の着色不良などがすでに報告されています。

世界を見たとき、南太平洋諸島では海面上昇により、国土が水没してしまい住居を奪われる「環境難民」と呼ばれる人たちが増加することが予想されます。

私たちにもできる地球温暖化防止メニュー



エアコンの温度設定

夏は26度から28℃に、冬は22℃から20℃にしましょう。

エコドライブ アイドリングストップ

信号待ちで停車中もエンジンを切りませんか。またできるだけ車を使わない生活を心がけませんか。



節電

こまめに電気のスイッチを切ったり、コンセントを抜いて待機電力を減らしましょう。



買い物

買い物の際はマイバッグを持参しましょう。また、ゴミの分別を徹底しましょう。



省エネ家電

冷蔵庫やエアコン等買い換える際はエコタイプを選びませんか。



節水

お風呂の残り湯は洗濯に、シャワーは1分短くしましょう。



ここであげたのはほんの一例です。もちろん、わたしたちが取り組んでいる地産地消運動がもっとも重要な活動のひとつです。

家庭で、JA女性組織で、地域で話し合っははじめませんか。一人ひとりの毎日の取り組みが地球温暖化を防ぎます。身近なことからスタートすることで意識を高めましょう。地球に優しいだけでなく、節約にもつながり、わたしたちの暮らしを改善していきます。

今、なぜJA女性組織で地球温暖化対策に取り組むのか

1997年(平成9年)、京都で地球温暖化防止に関する国際会議「第3回気候変動枠組条約締約国会議」が開催され、京都議定書が締結されました。その中で日本は、国際的な約束として2012年までに1990年比で6%の温室効果ガス(CO₂、メタンなど)の削減を約束しました。しかし、2005年度においては90年比で7.8%を上回っておりさらなる取り組みをしていかなければなりません。

CO₂ガス等温室効果ガスが増加することにより、農業にもたらされる影響が懸念されています。私たちの暮らしのもとである農業の基盤を守り、次世代によりよい生活環境を残していくためにも82万人の力を結集していかなければなりません。



京都議定書とは

1992年の地球環境サミットで、気候変動枠組条約が締結され、現在、日本を含む188カ国及び欧州共同体が締約国となっています(2006年6月現在)。これは大気中の温室効果ガス(CO₂等)の増大による地球の温暖化を抑制することを目的としたものです。この条約の目的を達成するために、COP3(第3回

締約国会議)で採択された議定書が京都議定書です。ここでは先進諸国に対して、2008年~2012年の間に、1990年比で温室効果ガスの削減が数値として義務づけられました(日本は6%)。日本を含む140カ国と欧州共同体が締結し、2005年2月16日、京都議定書は発効しました。



JA全農

経営理念に、地域の環境保全に積極的に取り組むことを掲げています。人と生き物にやさしい農業を応援する「田んぼの生きもの調査」や林野庁が推進する「木づかい運動」への取り組みなどを行っています。

JA共済(JA共済連)

地球温暖化防止「国民運動」推進事業(チーム・マイナス6%)にJA共済連役員が参画し、環境省が提唱する「CO₂削減のための6つの取組み」に取り組み、「私のチャレンジ宣言」を全職員が目指すとともに、この宣言に登録したメンバーに、エコバックを配布します。

JAバンク(農林中金)

創立80周年を機に、「公益信託農林中金80周年森林再生基金」を設定し、国内の荒廃した民有林を再生する事業・活動に対し助成を行っています。

家の光協会

「家の光」4・5月号において、環境特集を企画し、「JA女性エコライフ宣言」に関する学習資料を提供します。

Nツアー(農協観光)

JA女性組織の「テーマ別活動」に即した旅行として「JA女性組織仲間づくり旅行」をご提案しており、「環境保全」と「子育て支援」もそのテーマとなっております。

JA全中

JA、JA中央会・連合会、全国機関、JA女性組織等とともに、「JAくらしの活動」の1つとして、「美しい地域環境を守るJA環境保全活動」を推進しています。



JA全国女性組織協議会
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目8番3号(JAビル)